

「浜柿」収穫始まる

かながわブランド登録の旬果実 完熟採りで品質に自信

横浜市では10月に入り、かながわブランドに登録されている「浜柿」の収穫が始まりました。今年は生育期間中の日照時間が長かったことで糖度は高いものの、夏場に雨が少なかった影響で例年よりも小玉傾向。高温多湿の日が続いたことで病害虫の発生も心配されましたが、JA横浜果樹部カキ班に所属する78戸の農家は防除を徹底。被害もほぼなく順調に生育し、家族総出で収穫作業を進めています。

◆浜柿とは◆

JA横浜果樹部カキ班に所属する78戸の農家が生産する柿の総称です。樹で完熟させ、最も味の良い時期に収穫するため、甘みが強く大玉なのが特徴です。品質の高さが認められ、2019年10月には「かながわブランド」に登録されました。

◆品種◆

主に肉厚で果肉がやわらかな「富有」や歯ごたえのある「次郎」、サクサクとした食感の「太秋」などが生産されています。

◆かながわブランドとは◆

組織的な生産体制に基づき、品質、生産量並びに供給体制の向上及び安定を目指す県内産農林水産物及び加工品のことです。

◆取材先◆

酒川農園 園主 酒川博光さん (57)
JA 横浜果樹部カキ班班長



◆生産の情報◆

35アールで「太秋」を主力に「松本早生」「次郎」など7品種を栽培。低樹高栽培に取り組み作業の効率化や安全性を図り、ナギナタガヤ草生栽培をして雑草管理の省力化や土壌改良、水分の安定化にもつなげています。摘蕾（てきらい）と摘果は果実肥大に関わるため入念に行い、仕立ては「太秋」とそれ以外で変えています。大玉で重量もある「太秋」

は、強い枝を作るために全体的に枝数を少なく間隔も広げ、養分を集中させています。「次郎」や「松本早生」などは、枝を切り過ぎると樹勢は良くなりますが、花芽を付けない徒長枝が増えるため、バランス良く実がなるように整えることが重要だそうです。

◆収穫時期◆

10月2日から「太秋」の収穫が始まり、品種をリレーしながら12月上旬まで続きます。

◆販売◆

自宅での直売と宅配のみ。

◆生産者のコメント◆

酒川さんは「近年は異常気象に対応することに頭を悩ませている。その中でも高品質な果実を作るのが生産者の役目。果樹部の仲間とも切磋琢磨し、消費者に美味しい柿を届け続けたい」



◇横浜農業協同組合 組織概要 *2023年3月31日現在

創立 : 2003年4月
本店所在地 : 神奈川県横浜市旭区二俣川1-6-21
代表者 : 代表理事組合長 柳下 健一 (やなぎした けんいち)
出資金 : 116億円
組合員数 : 71,820人 (正組合員11,060人、准組合員60,760人)
職員数 : 1,337人
ホームページ : <https://ja-yokohama.or.jp>

みんながHAPPY!
やるJAの横浜!

共有ビジョン

総合3ヵ年計画を遂行するための心構えや姿勢として、組合員・地域・役職員の「みんながHAPPYになれるJAを本気で作りたい!」という共通した思いを表現し掲げるものです。

本件に関するお問い合わせ先

J A横浜 組織部広報課 沢辺 (さわべ) TEL045-532-8410

※生産者への取材をご希望の場合は、
左記までご連絡ください。